

令和2年度 特色ある道徳教育推進校(心の教育推進キャンペーン実施校)  
袖ヶ浦市立根形小学校

研究主題

考え、議論する道徳への質的転換を目指した指導方法の工夫改善

取組

今年度は、①～⑦までを指導の手立てとし、研究主題に迫っていった。

①発問の工夫

中心発問は、ねらいに迫るための決め手となる道徳的価値に向かう最も重要な発問である。そのため、どのような中心発問にするかを吟味した。また、授業展開の各場面の中で、本時でねらいとする道徳的価値について考えさせた。

②書く活動の工夫

書く活動は、自らの考えを深めたり、整理したりする機会として、重要な役割をもつ。そのため、十分に時間を確保し、学習の個別化を図ることにより、児童が自分自身とじっくりと向き合うことができるようにした。ワークシートは、使用を始めてから4年目となる「道徳ファイル」に積み重ね、自分自身の成長や考えの変容に気づけるようにした。

③話合いの工夫

話合いは、児童相互の考えを深める中心的な活動であり、考えを出し合う、まとめる、比較するなど目的に応じて効果的な話合いが行われるように工夫した。討議形式で進めたり、机の教室配置を変えたり、話合いグループの座席配置を工夫したりした。教材によっては、心情を数値として表す「心のものさし」を活用し、自己の立場を明確にさせながら話合いを進めた。

④「授業づくりシート」を活用する。

次の3つの学習活動を授業作りの視点として、「授業づくりシート」を作成し活用した。

①自己を見つめる。②物事を多面的・多角的に考える。③自己の生き方についての考えを深める。

⑤「授業参観シート」を活用する。

授業についての評価の充実を図るため、「授業参観シート」を活用した。このシートは、授業評価の観点を基にした授業の見取りを行うためのシートである。

⑥学習内容の明確化

授業の中で何を学ぶのか、確認させることは大切なことであると考え。そこで、授業前には、本校の目指す児童の姿である4つの内容のうち、どの内容を学習するかを言葉や色で示した。

⑦年間計画の見直しと別葉の活用

道徳科が学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての役割を果たすことができるよう、計画的、発展的な指導を行うことが重要である。道徳の年間計画を見直し、道徳教育全体計画、別葉を活用していった。

授業実践事例

小学校 第4学年 道徳学習指導案

令和2年11月27日(金)

- 1 主題名 「正しいと思うことは自信をもって」  
A(1)善悪の判断、自律、自由と責任 (県の視点「かけがえのない自分」)  
教材名「本当の宝物」(千葉県作成映像教材)

2 ねらい

文也がからかわれていることに対して「やめよう」と言えずにいる友太(主人公)の葛藤に共感し、主人公の心情や行動の理由を考えることを通して、正しいと判断したことを行動に移すためには勇気をもって相手に伝えることが大切だということに気づき、自分が正しいと判断したことを行動に移そうとする態度を養う。

3 主題設定の理由

(1)ねらいや指導内容についての教師の捉え方

小学校学習指導要領では、「善悪の判断、自律、自由と責任」の内容項目について、主として自分自身に関することの中で「正しいと判断したことは自信をもって行い、正しくないことは行わないようにする態度を育てる必要がある」と示されている。

この時期の児童の発達段階においては、様々な学習や生活を通して、正しいことや正しくないことについての判断力が高まってくる。しかし、正しいことと知りながらもそのことを実行できなかったり、悪いことと知りながらも周囲に流されたり、自分の弱さに負けてしまったりすることがある。これは、周囲との関係に軋轢が生じたり、関係が壊れたりしたくないという意識が働いてしまうからであると考えられる。しかし、自信をもって行動するためには、自分にとっての利害だけを考えるのではなく、悪いことは悪いと言える勇気が必要である。ここでは、「大切だ」とわかっているけどできない人間の弱さがあることやその時の後ろめたさ、自ら信じるところに従って主体的に行動した時の充実した気持ちを考えさせることで、正しいと思うことは自信をもって行おうとする大切さに気付かせ、行動しようとする態度を養いたいと考え、本主題を設定した。

### (2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級は、男子12名、女子11名の計23名の児童が在籍している。学級内の規範意識はそれ程低くはないが、ルールやマナーを守れないことが度々見受けられるように感じる。日々の生徒指導においても善悪を判断することの重要性や、正しいと思ったことを行動に移すことの大切さを意識して指導してきた。しかし、自分では善悪の判断ができていると思っていても、実際にはそうではない児童が多く存在するように感じる。そこには、児童の意識と行動にズレがあるのではないかとと思われる。また、正しさをどのように捉えるかについては、個人差があると考えられる。人によって、善悪の判断についての価値観は多様であると考えられるが、そのような場面に遭遇した時に、相手の立場に立った上での客観的な判断ができ、それを行動に移すことが必要である。本時では、正しいと思うことを行動に移そうとする態度を育てたい。

### (3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、4年生の仲良し4人組の話である。自分の宝物をテーマにした粘土の作品から、文也は、「天才」と呼ばれるようになる。それが続き、文也は傷つくが、持ち前の性格でごまかしてしまう。主人公の友太は、文也を気遣うが、行動に移せないでいた。さらに、文也に対するからかいは、「靴かくし」にエスカレートしてしまう。何とか靴が早く見つかるように仕向けた友太だったが、いたずらを繰り返す竜や一希に「やめよう。」と言うことはできなかった。そんな時、家で母が大切に育てている花の鉢を、兄が倒してしまう。「直せば分からないよ。」と友太は言った。しかし、友太に対して、兄は「ごまかしてはいけない。」と諭す。兄の話聞き、考え込む友太。考えた末、竜と一希に「謝ろう。」と話す。竜と一希も同じことを考えていた。

仲のよい友達なのにからかいや行動がエスカレートして傷つけ合うことは、子どもたちの生活の中で起こりうることである。主人公の友太の気持ちを中心に考えるが、からかわれて悲しい思いの文也の気持ちも考えることで、やってよいことと悪いこと、正しいと思うことは自信をもって伝えることが大切であることや勇気をもって言えば充実した気持ちになることに気付かせたい。

## 4 展開

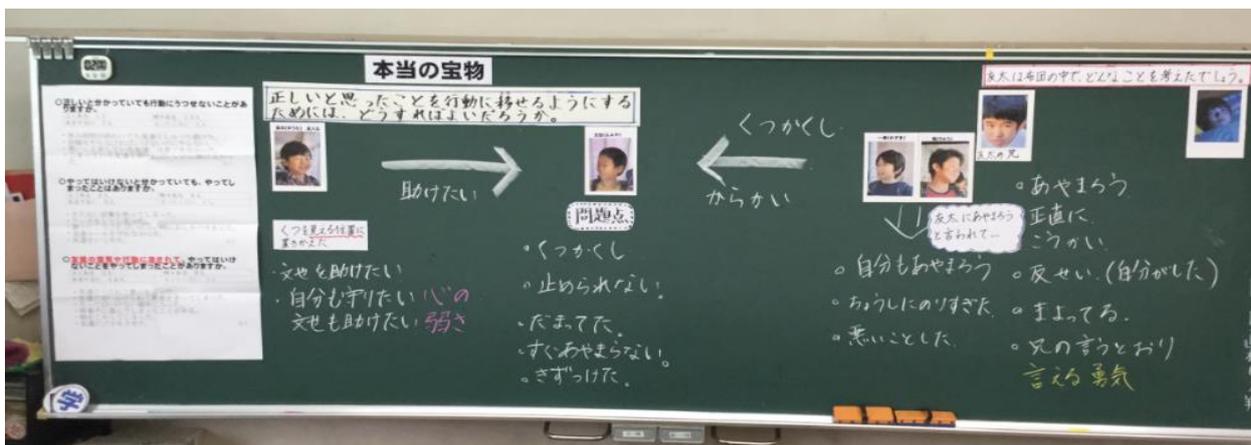
過程	学習活動	発問(○)と予想される反応(・)	指導上の留意点 (支援及び評価) (・留意点○支援◆評価)	資料等
導入	5 1 アンケートの結果を見て、学級の実態を知る。		○アンケートの結果を提示することで、問題意識を持ち主体的に自分との関わりとして考えさせる。	アンケート結果
	正しいと思ったことを行動に移せるようにするためにはどうすればよいだろうか。 (自己を見つめる)			
展開前段	2 2 登場人物を知る。 11 3 DVD「本当の宝物」を視聴する。 9 4 物語の中の問題点について考える。	○この話の中の問題点は何だったのでしょうか。 ・止めたいけど、止められないところ。	・道徳的価値への方向付けをする。  ・友太が文也の本心に気付いたが、竜と一希に言えない気持ちに気付かせる。 ・友太がはっきりと竜と	人物の絵 DVD

	10	<p>5 友太が布団の中でどんなことを思っていたのかを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友太が自分から言えなかったところ。</li> <li>・友太が文也に対して悪いと思っているにも関わらず止められないところ。</li> <li>・文也に直接言わず、靴を置き換えたところ。</li> <li>○友太は、なぜ竜と一希に何も言わなかったのですか。【補助発問】</li> <li>・二人との関係を壊したくない。</li> <li>・自分もやられるかもしれない。</li> <li>○友太は、なぜ靴を見えやすい位置に置いたのですか。【補助発問】</li> <li>・二人には言えないけど、文也を助けたい。</li> <li>・自分が関わっていることを文也に知られたくない。</li> </ul>	<p>一希に言えないが、文也に対して悪いという気持ちが行動に表れている部分に着目させる。</p> <p>○仲の良い友達だからこそ、やめろと言うことで関係が崩れることを恐れる友太の葛藤に共感させる。(友太が葛藤している姿に対して、児童にゆさぶりをかける。)</p> <p>○友太の心の弱さを考えさせることで誰しもが持つ人間的な弱さに共感させる。</p>	
友太は布団の中でどんなことを考えたでしょう。(物事を多面的・多角的に考える)					
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・明日、一希と竜に言おう。</li> <li>・言いたいけど言えない・・・。</li> <li>・学校に行きたくないな。</li> <li>・文也に悪いことをしたな。</li> <li>・二人にも話して、一緒に謝らないと。</li> <li>・お兄ちゃんの言うとおりで。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに書かせ考えを明確化させる。</li> <li>○兄の言動によって、友太が葛藤していることに気付かせる。</li> <li>◆自分で正しいと判断したことを行動に移すことの大切さに気づき、自分との関りで考えることができたか。(ワークシート、発表等)</li> </ul>	ワークシート
展開後段	3	6 友太に謝ろうと言われた二人は、どんなことを思ったかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友太に謝ろうと言われた二人はどんなことを思ったでしょう。</li> <li>・文也を傷つけてしまった。</li> <li>・もっと早く止めてればよかった。</li> <li>・友太が言ってくれてよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竜と一希も止めるタイミングを失ってしまい、本当は謝ろうとしていたことに気付かせる。</li> <li>・謝ったことで充実した気持ちになったことに気付かせる。</li> </ul>	
	2	7 教材を通して学んだことを自分の生活に置きかえて考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○正しいことを行動に移せて気持ちよくなったことはありますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本教材で考えたことを実生活に引き戻すために、アンケート結果を紹介する。</li> </ul>	アンケート結果

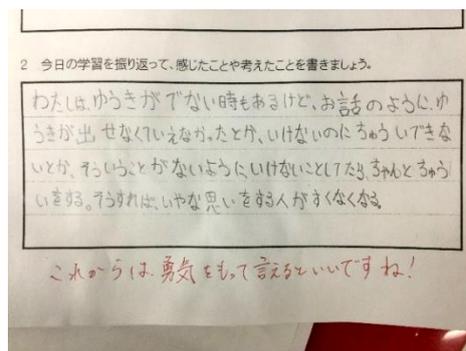
終末	3	8 本時の学習を振り返る。(自己を見つめる)ワークシートの振り返り欄に記入して伝え合う。			
		今日の学習を振り返ってどんなことを感じたり考えたりしましたか。(自己の生き方についての考えを深める)			ワークシート
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習をもとに、これからの自分の生き方について思ったことをワークシートに記入して、実践しようとする意欲をもつようにする。</li> <li>◆自分の生き方について考えられたか。(ワークシート、発表等)</li> </ul>	

5 授業の様子

(1) 板書



(2) 児童の様子 (取組② 書く活動の工夫)



**本時の成果と課題**

- 発問を精選し、児童が話し合う観点を明確にすることができた。
- 補助発問を入れることで、児童の心を揺さぶり、当事者意識をもって考えることができた。それによって、中心発問では、主人公の気持ちを多面的・多角的に捉えることができた。
- 正しいと判断したことを自信をもって行うためには、「勇気をもち行動することが大切」だということを、児童の発言から引き出せばよかった。